



布施だより

《 感じて、応えるー ~みんなが使う場所だからこそ~ 》

21 日 (水) に生徒集会があり (インフルエンザ流行の時期でしたので、体育館ではなく校内放送で行い、生徒諸君は教室で耳を傾けてくれました。) 高野生徒会長からの連絡を聞きました。その後で、次のようなお話を生徒の皆さんに伝えました。

生徒集会の後、少し時間をいただきます。・・・皆さんに大切に考えてほしいことがあります。

気づいている人も多いと思いますが、先週の金曜日の午後、東体育館と皆さんの校舎棟の間にバキュームカーが来ていたのを覚えているでしょうか。

あの場所には学校内のトイレで使用した汚水がすべて集まる排水タンクが設置されています。直径 80 cm、深さ 6 寸ほどの、その排水タンクが詰まり、汚水が満杯になってしまい、タンクから溢れるのも時間の問題でした。ですから、バキュームカーで強制的に汚水を汲み出させていただきました。その量はバキュームカーで 3 台分、排水タンクに詰まった汚水を全て抜くのにバキュームカーは汚水を積んで 3 往復したのです。

それでも排水タンクから外部へ排出するポンプの詰まりが解消されなかったため、翌日の土曜日丸一日、業者の方が排水タンクの中に入り、ポンプの詰まりを取り除くべく、いろいろな作業を試みて ようやくポンプを通していただきました。

皆さん、排水ポンプから何が出てきたと思いますか。

マスク、布きれ、紙くず、等、様々なものがポンプから出てきて、それらのものがポンプをふさいでしまい、排水できなくしていたのです。バキュームカーの使用料金、排水ポンプの作業料金を合わせると巨額の諸費用がかかりました。また冷たい水の中 業者の皆さんは丸一日の作業をしてくださいました。この作業がなかったら、私たちは今日、トイレを使用することができなかったのかも知れません。

みんなに考えてほしいのはここからです。トイレに流してはいけない物がたくさん流され、それらがポンプを詰まらしてしまっただけでなく、これは「公共のマナー」に反することです。みんなが使う場所を公共の場といいます。みんなが使う場所だからこそ、みんなが気持ちよく使えるよう心を配る、それが「公共のマナー」ですね。そのマナーを守らないと、少なからずの周りの人に迷惑をかけることになります。不愉快な思いをする人が出てきます。

トイレの使用については、次のようなことも耳に入ってきます。トイレ内でトイレットペーパーを無駄使いし散らかしたままにしてしまう、壁紙にいたずらして破ってしまう。・・・すべて「公共のマナー」に反することなのです。

それは本当のみなさんの本物の姿ではないはずです。

みんなの教室に掲げてある「凡事徹底～場を清める～」の写真を見てください。トイレ掃除の床磨きに膝をついてひたむきに向き合う掃除する姿です。この姿こそが、皆さんの願っている本物の姿のほうです。そんな姿を大事にしてほしいのです。トイレにはトイレットペーパー以外流さない、いたずらをしてはいけない、自分たちのトイレを大切にする。そして自分たちの学校を好きになる。

そんな皆さんを期待しています。



校内放送で、こんな注意喚起の話をした翌日の、とある学級通信を紹介します。まっすぐに受け止め、考えようとしてくれる皆さんがたくさんいます。

昨日、教頭先生からあった話は、とても悲しいものでした。トイレにはトイレットペーパー以外流さないという当たり前のことが守れず、多くの人に迷惑がかかってしまったというものでした。生活ノートを読んでも、悲しんでいる人、怒っている人が多数いました。改めて、ルールを守ること、考えて行動することの大切さを考えさせられたことでしょう。さて、それに関わって、次のようなお話を紹介したいと思います。

～「信頼できる人とは、ゴミを拾える人」(志賀内 泰弘)～

石川県七尾市に住む友人が、わざわざ訪ねてきてくれました。

名古屋駅で待ち合わせをして、地下街の喫茶店で話をしました。楽しい時間はあっという間に過ぎてしまいます。2時間ほど話し込んで喫茶店を出ました。駅の改札に続く階段の前で、その友人が急に前屈みになりました。そして、足元のゴミをさっと拾ったのです。

別に、特別なことをしたという感じもなく、そのまま会話を続けて歩きました。でも、そのゴミというのはくちゃくちゃになったティッシュペーパーでした。誰が鼻をかんだかわからない代物です。

正直に告白します。

実は、私もそのティッシュペーパーに気づいていました。そして、拾うのをためらいました。そのためらっている間に、彼はぱっと拾ったのでした。恥ずかしかった。本当に恥ずかしかった。

〈ゴミを一つ捨てる者は、大切な何かを捨てているゴミを一つ拾う者は、大切な何かを拾っている〉

これは、私が20年ほど前に「心の師」から教えていただいた言葉です。この大切な「何か」とは何なのでしょう。20年間、ずっと考えてきました。実は、そんなに長い間考えても「ズバリこれだ」という答えが見つかりません。反対に、次々とたくさんの言葉が浮かんできます。「品格」「こころ」「思いやり」・・・ 人によって様々な言葉が当てはまると思います。

その中でも、私は「信用」という言葉を一番に挙げたいと思います。人の目の前でポイッとゴミを捨てる人を、あなたは信用できるでしょうか。

空き缶を車の窓から投げ捨てる人。タバコの吸い殻を舗道に捨てる人。

その人たちは「信用」を捨てているのです。いくらお金持ちでも、どれほど大きな会社の社長さんでも、空き缶のポイ捨てをするような人とは付き合いたくありません。もし、そういう人と、友達だと見られるだけで、こちらの信用が落ちてしまいます。さて、その反対に・・・。

冒頭の友人の話です。私よりもっと大切にしたいと思う「信頼」できる人物です。～ ～ ～

物をポイ捨てる、つまり「ルールを破るということは、自分の『信用』を捨てていることになる。」ハッとさせる言葉です。大切な何かを自ら捨ててしまうことのないよう、意識して生活をしよう。そして、願わくば、自ら大切な何かを拾っていける人になるように。生活ノートから、みんなの感じたことを伝えます。

- トイレが詰まったことにより、莫大なお金と業者の人たちに大変な迷惑をかけてしまったとお聞きしました。私は、トイレにマスクとか流す人がいるということに怒りがわきました。流しちゃいけないことぐらいとくに知っているはずなのに、流すなんて。しかも、中学生になってトイレの使い方を正しく理解できていないなんて。常識とか周りの人たちのこととか考えなさ過ぎだと思います。自分が逆の立場だったら迷惑だって思うはずのことを、ふざけてやったり軽い気持ちでやったりして楽しんだりして何がいいのか…。今回のことは、みんなに対して失礼だし、迷惑です。



・「自分一人くらいなら…」って気があったのかなと思います。でもそれを許し始めたら今回のようなことになってしまいます。行動を見つめ直すことのできる機会になりました。

起きたことはとても残念なことなのだけれど、他人事ではなく自分自身の問題ととらえ直し、「行動を見つめ直すことのできる機会」になったという感想に、「公共のマナーを守る社会人」のひとりとして伸びようとしていてくれることに思いを強くしています。皆さんは着実に心身を精一杯成長させようとしている、「信用」を勝ち取ろうとしてくれています。



多くの感想を寄せていただきました。ありがとうございました。

～ ～ 《 春待つ息吹き 》 ～ ～

〈第60回長野市学童書道展〉

金賞	1年	大久保真珠さん	鈴木はるかさん	渡利康生さん	庄田早希さん
	2年	峯丸彩花さん	早川智也さん	齊藤あやみさん	
銀賞	1年	須藤来良さん	小林彩夏さん	久保田美咲さん	
	2年	新海雪奈さん			
銅賞	1年	赤澤翼さん	高原弘貴さん		
	3年	竹下大貴さん			

〈第8回順柔杯争奪中学生柔道大会〉
男子団体第2部3位

〈第39回更埴地区中学校新人バスケットボール大会〉
男子 優勝
女子 2位

～ ～ ～ ～ ～ ～

「二人が睦まじくいるためには／愚かであるほうがいい」ではじまる『祝婚歌』など、分かりやすい言葉を使って人と人とのつながりを描いた作風で知られる、詩人吉野 弘さんが昨年1月に亡くなり1年が経ちます。ひとり娘の奈々子さんに寄せた詩を紹介します。

奈々子に ～ 吉野 弘 ～

赤い林檎の頬をして／眠っている 奈々子。
お前のお母さんの頬の赤さは／そっくり／奈々子の頬にいつまでも
ひところのお母さんのつややかな頬は少し青ざめた／お父さんにも ちょっと／酸っぱい思いがふえた。
唐突だが／奈々子／お父さんは お前に／多くを期待しないだろう。
ひとが／ほかからの期待にたえようとして／どんなに／自分を駄目にしてしまうか
お父さんは はっきり／知ってしまったから。
お父さんが／お前にあげたいものは／健康と／自分を愛する心だ。
ひとが／人でなくなるのは／自分を愛することをやめるときだ。
自分を愛することをやめるとき／ひとは／他人を愛することをやめ／世界を見失ってしまう。
自分があるとき／他人があり／世界がある。
お父さんにも／お母さんにも酸っぱい苦勞がふえた。
苦勞は／今は／お前にあげられない。
お前にあげたいものは／香りのよい健康と／かちとるにおずかしく
はぐおにおずかしい自分を愛する心だ。



私たち大人が若い人たちに与え、授けたいものは山ほどあるのだけれど、この詩を久しぶりに読み返してみると難しく考える必要など全くなく、いたってシンプルだということを改めて考え、教えられました。私たち大人が、若い人たちに望むものは、毎日毎日を健康で過ごしてくれることと、かけがえのない自分を大切にすると同様に、周りとうんざりしながら過ごしていこうとする周囲への優しく揺るぎのない信頼感。

・・・生徒たちは「自分を愛する心」と「健やかな心身」を身につけようとしてくれています。